

平成 23 年度 夏休み子ども向け公開講座実施報告

・ はじめに	2
・ 平成 23 年度 大学公開講座事業委託実績報告	3
英語『楽しくはじめようジュニア・イングリッシュ』	4
図画工作『夏休みの課題（ポスターや風景画等）の製作』	6
音楽『みんなで箏をひいてみよう』	7
国語『読書感想をまとめよう』	8
理科『たのしい理科実験』	9

はじめに

千葉敬愛短期大学
学長 伊藤勝博

「夏休み子ども向け公開講座」は、本年度で6年目を迎えました。この公開講座は、佐倉市の「市民公開講座事業（委託）」の一環であり、千葉敬愛短期大学が委嘱をいただいて今日まで実施してきた次第です。

今年度の公開講座のコンセプトは、地域子どもたちが有意義な夏休みを設計する上で活用できるものにしました。その内容は、【音楽】「みんなで箏をひいてみよう」 【図画工作】「夏休みの課題（ポスターや風景画等）の製作」 【理科】「たのしい理科実験」 【英語】「楽しくはじめようジュニア・イングリッシュ」 【国語】「読書感想をまとめよう」の5科目で構成し、製作活動や体験的学習を取り入れたものです。

各講座の様子を垣間見ると、子どもたちは休憩もろくに取らずに黙々と製作・体験的活動に没頭していました。その集中力と向上心の旺盛さには感心しました。

子どもたちは体験の過程の中で、自ら何かに気づき、感じて行動し、心が変容していたのではないかと思います。未知のことや曖昧なことを探求しようとする好奇心が知的探究心に変容していたのです。

人間は誰でも、自分の能力・性質などをより優れたものにしようとする心、すなわち「向上心」を本能として備えており、己の成長していくことに喜びを感じると論じられています。しかし、この向上心に火をつけなければ、容易には自ら学び、活動したりはしません。

子どもたちは、本講座の活動の中で“わかった”“できた”という発火点によって、「向上心」に火がつけられ、自発的に学習を継続し、高い能力を発揮することができたものと考えられます。

いずれにいたしましても、このような貴重な場を提供してくださいました佐倉市教育委員会に敬意を表したいと思います。

今年も子どもたちや保護者の皆様から、「去年も来たんだよ」「兄弟で夏休みのスケジュールに入れているんです」などのコメントを頂きました。今後一層、これを励みとして、本学の初等教育科が備えている専門的知識・技能等を、地域の教育・保育に生かしてまいる所存です。これからも、「地域中核のコミュニティカレッジ」を目指す千葉敬愛短期大学に対しまして、ご理解とご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

平成 23 年度 大学公開講座事業委託実績報告

1. 趣旨

大学公開講座委託事業は、佐倉市との委託契約により、高等教育機関の持つ機能を生かした講座を展開し、広く市民に対し生涯学習を通じ、より豊かに生きるための学習支援を行うことを目的に実施した。

2. 内容

千葉敬愛短期大学教授陣の音楽や国語、理科など小学校科目の専門的な知識を活かし、子どもを対象とした体験的な活動の公開講座を実施した。

1. テーマ 「夏休み子ども向け公開講座」
2. 期日 平成 23 年 8 月 22 日(月)～8 月 26 日(金) 計 5 日間 9 時 00 分～12 時 00 分
3. 会場 千葉敬愛短期大学 (佐倉市山王 1-9)
4. 対象 小学生 (1～6 年生)

講座日	講座内容	講師	参加者人数
平成 23 年 8 月 22 日(月曜日)	【英語】 楽しくはじめよう ジュニア・イングリッシュ	千葉敬愛短期大学 初等教育科 非常勤講師 米川 聖美	25 名
平成 23 年 8 月 23 日(火曜日)	【図画工作】 夏休みの課題 (ポスターや風景画等)の製作	千葉敬愛短期大学 初等教育科 専任講師 久保木 健夫	27 名
平成 23 年 8 月 24 日(水曜日)	【音楽】 みんなで箏をひいてみよう	千葉敬愛短期大学 初等教育科 非常勤講師 鈴木 由美子	21 名
平成 23 年 8 月 25 日(木曜日)	【国語】 読書感想をまとめよう	千葉敬愛短期大学 初等教育科 専任講師 鈴木 健一	26 名
平成 23 年 8 月 26 日(金曜日)	【理科】 たのしい理科実験	千葉敬愛短期大学 初等教育科 非常勤講師 松尾 忠正	27 名

3. 受講料

無料

英語『楽しくはじめようジュニア・イングリッシュ』

講師：米川 聖美 先生

講座公開日：平成 23 年 8 月 22 日（月曜日） 9:00～12:00

参加人数：25 名

講座内容について

小学校における英語学習は、観念的に学ぶだけではなくゲームというツールを用いて、頭と身体を同時に動かしながら楽しく自然に身につけることが大切です。また、この講座では、個として英語を学ぶのではなく、他者との繋がりの中で学ぶことの大切さも習得できるようにゲーム内容にも配慮しました。授業のはじめには、緊張と不安で泣き出す生徒さんも出てきますが、決して無理強いせず、間違っても平気だということを事前にしっかりと伝えます。そのため最初は大きなグループからはじめ、慣れてきたら徐々に少人数のグループに、そして最後はペアで会話を練習し、自信をつけていくようにも工夫しています。

今回の参加者は小学 1 年生から 6 年生まで。また兄弟姉妹は別として、ほとんど面識のない生徒さんたちであることを考慮し、最初に挨拶の仕方を学びます。そして、それを用いたさまざまなゲームをとおして相手の名前を覚えることがコミュニケーションの第一歩であり、相手を知り親しくなることが「楽しい」ということを体得させていきます。（自己紹介ゲーム/ハイタッチゲーム等）

その場の雰囲気慣れてきたら 6 人のグループに分け、タッチゲーム、ジャンケンゲーム、ショッピングゲームなど、仲間とのゲームをとおして楽しく英単語やコミュニケーションの表現を覚えたり、異文化表現に親しんでいきます。

最後に、本日の集大成として全員参加のロールプレイ『七匹の子ヤギ』（英語脚本：米川聖美）を、3 つのグループ分かれて演じます。

講座を実施して

本年度より小学校で英語が授業に導入されることとなり、保護者の方々も大きな関心がおありのようで、最初から最後までほとんどの方々に授業を参観いただきました。これからのグローバルな時代を生きる子どもたちにとって、共通の言葉である英語に親しみ、使いこなしていくことは重要であり、またこの講座の教育的意義もそこにあると考えます。

また幼稚園、小学校の教師を目指す学生たちにとっても、系統だった英語指導法をしつかりと学んで、その一役を果たしていただきたいと切に願います。

英語を学ぶにあたって、個々の発音に気をとられず全体のリズムを大事にすることを話しましたが、初めは恥ずかしさのため、ほとんどの参加者は小さな声でしか発話できませんでした。しかし、さまざまなゲームをとおして仲間と英語でコミュニケーションをとる楽しさを体験し、最後にはどの参加者も大きな声で積極的に参加するという変化が見られました。

また緊張感や、人前で発話する不安から泣き出す児童もいましたが、自己紹介ゲームなどをとおして仲良くなった他の児童の優しい声かけによって、自然に授業の輪に戻り、その後は積極的に参加する様子がみられました。外国語に対するアレルギー反応を取り除き、コミュニケーションのツールであることを身体で気づくことに最も力を入れましたが、英語教育の本来の目的である「コミュニケーション能力」の芽生えを見ることができました。

最後の劇では、練習では出番を間違えたり忘れてりする児童も少なくなかったにもかかわらず、本番で衣装をつけると全員が役になりきることができ、3グループともに期待以上の成果を上げることができました。

やはり低学年ほど練習だけでなく、それを活かせる場が用意され、他者からの評価や本人自身が達成感を味わうことが次への飛躍を生むことを実感しました。このように、人と人との関わりが英語教育には重要と言えるでしょう。



図画工作『夏休みの課題（ポスターや風景画等）の製作』

講師：久保木 健夫 先生

講座公開日：平成 23 年 8 月 23 日（火） 9:00～12:00

参加人数：27 名

講座内容について

佐倉市内の各小学校で出題されている夏休みの課題のうち、図画工作科のポスター製作に相当する活動を、本講座において実施した。事前連絡の段階で、参加児童に対しては、テーマはあらかじめ決めてくるということ、必要な描画材料一式を持参してくるということ、可能であればデッサンを行ってくるということ、を伝えている。

製作活動では、テーマの確認、構図の決定、デッサンの完成、水彩絵具やクレヨン等による着色を行った。また、必要に応じて、図鑑等の参考資料をこちらから提示したりもした。最後に 10 分ほどの時間を利用して、本講座で製作した作品の鑑賞会を、保護者の方も交えて行い、まとめの時間とした。

講座を実施して

参加した児童は、テーマや描画材料、資料等を、事前にしっかり準備してきた。昨年度は、初対面の参加児童同士のためか、全体的に緊張気味であったが、今年度はリラックスした雰囲気の中で集中して造形活動に臨むことができていたように思う。作品も、ほぼ全員の児童が時間内に完成させ、さらにもう一つ作品を製作する児童の姿が目立った。また、昨年度も参加した児童や保護者の方が今回も声をかけてくださり、私自身も励まされた。

・本学の置かれている地域の児童およびその関係者（保護者を含む）と、図画工作という造形活動を通して交流することができた。

・本講座に参加した児童が、本学や図画工作に対して、興味や関心を抱き、愛着や親近感を感じてくれればよいと思う。



音楽『みんなで箏をひいてみよう』

講師：鈴木 由美子 先生、兵藤 恭子 先生、武藤 初美 先生（外部講師）

講座公開日：平成 23 年 8 月 24 日（水曜日） 9:00～12:00

参加人数：21 名

講座内容について

日本の楽器を代表とする「箏」の歴史や、「琴」と「箏」の違いなどを伝えた後、2 人に対し 1 面の箏を準備して、弾くことを経験させた。

馴染みの少ないと思われる「箏」ではあるが、自宅に箏のある子どもが 2 人居た。

はじめは強いとまどいを見せた子も居た。（理由・・・お母さんが勝手に申し込んだ、など）

3 時間のうち、前半の 45 分程を、自己紹介、あいさつ、箏という楽器の説明にあて、途中 10 分程度の休憩をはさんで、残りの時間を全て楽器に触れる時間とした。最後の 30 分を「ミニ・コンサート」として当日、学んだことを保護者の前で披露した。

参加者の中で、4 年生の人数が多くいたため配慮をしながら進めた。

講座を実施して

鈴木 由美子 先生

純真な子どもたちの素直な反応と、すばらしい集中力。教壇にいた私自身も学ぶことが大変多く、貴重な経験でした。

箏の知識が少しでも身についたこと、箏を弾くだけでなく、そこに伴われる作法、所作も伝えられたことは子どもたちにとっても有意義であったのではないか。楽しく楽器で音を出すには、それなりの努力（見えないところの）が必要であることも伝えられたと思う。

兵藤 恭子 先生

和楽器に触れる機会はなかなかないので子どもたちもお母さんも楽しい時間を過ごせたと思います。

2 人で 1 台の楽器を使いましたが、トラブルもなく仲良くやっていたと思います。

アンケートをとったところ「楽しかった」「又やりたい」「先生の説明がわかりやすくてよかったなどの反応がありました。

最後のコンサートではビデオを撮ったり携帯で写真を撮ったりしている方がほとんどでした。大人 9 名子ども 6 名程が聴いてくださりました。欠席者がおりお箏が空いていたので、低学年のお子さんとお母さんにも参加してもらいました。お母さんの方が夢中でお子さんが飽きてしまいましたが、なだめながらも受講されていました。

最後の「さくら」の演奏も、お辞儀もきちんと上手にできていました。



国語『読書感想をまとめよう』

講師：鈴木 健一 先生

講座公開日：平成 23 年 8 月 25 日（木曜日） 9:00～12:00

参加人数：26 名

講座内容について

- (1) 何のために誰のために書くの？
 - ・残しておく＝自分のため
 - ・教えてあげる＝その人（友だちや先生や読む人）のため
- (2) 大事なことは何？ — 読書感想文の条件 —
 - ・いくつか考えられる中でも特に大事なことはどんなことか。
- (3) 作業 1 — 材料集め —
 - ・持参した図書を売り込むためにどんなことを宣伝するか。
 - ・項目を付箋に書き、項目ごとにその内容を書き出す。
- (4) 作業 2 — 構想・構成 —
 - ・必要な材料を取捨選択する。
 - ・中心になることをもとに、材料を並べる。

講座を実施して

参加した子どもたちは、長時間であったにもかかわらず、たいへん熱心に活動してくれた。

事前連絡通りに準備をしてくれていたのも、全員で同じことに取り組むことができた。これは進行上たいへん重要なポイントであった。

今回初めて読書感想文を書くという子どもも複数おり、どんなことが大切なのか、どう考えどのように進めればよいのかを、理解してもらえたと思う。

また、近道早道はないこと、手順を押さえて進めればよいこと、難しく考えないこと、なども認識してもらえたと思う。

中学年（4年生）と高学年（5、6年生）では、さまざまな面で違いがあるので、一緒にしてよいかという点も含めて、考慮することが必要である。



理科『たのしい理科実験』

講師：松尾 忠正 先生

講座公開日：平成 23 年 8 月 26 日（金曜日） 9:00～12:00

参加人数：27 名

講座内容について

『大気のおもしろい』をテーマとして以下の内容を実施した。

(1) 大気圧マジック（演示実験）

水を満たしたコップの口をプラスチック板で蓋をし、板を下にする。

口の大きさ、板の重さが条件となることを確認。「大気圧」の概念を獲得する。

(2) 雲の発生（演示実験）

水を少量入れたペットボトルに空気を押入し、一気に空気を抜く。

気圧の変化が雲の発生条件であることを知る。

(3) 水ロケットの制作と飛行実験

雲の発生と同原理で水ロケットを制作。完成した後野外で飛行実験をする。

講座を実施して

児童からアンケートを実施した。全員が満足して講座を終えており、次回も必ず参加したいとの希望を記入してくれた。6 年児童からは中学生向け講座の開設要望があった。次回については、電気系の科学工夫工作の希望が多かった。

本学学生 2 名がボランティアでアシスタントを務めてくれたが、彼らにとっても子どもたちとの交流のよい機会となった。

